

25時行動委員会・富山

通 信 号 外

2016.01

25時行動委員会・富山

(090-7744-0122 藤岡)

E-mail:25h.action@gmail.com

Url:http://25h-action.blogspot.jp/

「慰安婦問題『最終』解決に合意」で、
日韓が未だに脱植民地化されていないことが露呈
——この「問題」を脱植民地化回避システムの
廃棄へと折り返せ！

こちら〈25時行動委員会〉 応答ねがいます 応答ねがいます！

身体が怒りと恥ずかしさで震えています。

日本列島に生きる私・たちの祖父たちが、アジアの人々に対して犯した「とりかえしのつかない」悪行を、私・たちはどのように「とりかえす」のか——この〈問い〉に基づいてこの列島の再＝構成を試みる私・たちの営みが、なお未成であり続ける今、「安保＝戦争法制の整備」にひた走る安倍政権によって、その〈問い〉が無化されることに、怒りと恥ずかしさで身体が震えます。

とどけよう、私・たちの〈声〉を、くりかえし、くりかえし、アジアのひとびとに。私・たちの怒りの声を、恥辱にまみれたこの身体の底からの声を！

2015年12月28日の日韓政府発表に対する〈25時行動委員会〉の見解

〈要点〉

- 戦争法案成立の延長線上に今回の和解の政治的演出がある。あの「70年談話」を見過ごし、戦争法案を通させた結果が、この日韓の和解である。「談話」→戦争法案→和解は、「世界の中心で輝くニッポン」を目指す安倍の既定路線である。
- 「子や孫に」云々というのは、「談話」でも使った安倍お気に入りのフレーズである。「談話」と和解は、「もうこの件はこれで終わりだぞ」という韓国への脅し文句であり、「上から目線でそう言ってやりましたよ」という国内極右向けの言いわけである。
- 安倍の本音は、米国への自発的隷従から早く脱したい。「片務的」であった日米安保を日本も米国を守るという形式的な対等関係に変えた。その勢いで韓国との間に横たわる厄介

ごとにはサッサとケリを付けたいのだ。その先は、改憲あるのみ。そうして、アメリカの覇権主義に合わせつつもアメリカに頼りにされ、独自の判断でも戦争ができる帝国が完成する。さらに今年は、伊勢志摩サミットが控える。国家神道の聖地で世界の首脳を迎え、その中心で記念写真に納まる。つまり、「世界の中心で輝くニッポン」ってなもんだ・・・安倍の妄想は着々と実現に向かっている。ダブルスピークというインチキ話芸を武器にして。

- **安倍のダブルスピークにもウィーク・ポイント**はある。たとえ外交ゲームに勝ったとしても、自分の言動によって、植民地主義の負の歴史が呼び起こされ、日本帝国主義の（安倍にとって）輝かしい歴史が否定される「危険性」はある。
- **歴史認識で闘うために**、私・たちは自らの国民主義的歴史観を東アジアの普遍主義的歴史観とすり合わせて書き換えなければならない。その上で、「国益」という発想を捨てた非国民＝〈ピープル〉として、東アジアの〈ピープル〉と連帯し、日本に括り作られた脱植民地化回避システムを破壊するのだ。

I 「最終的かつ不可逆的な解決」＝「蒸し返さない」＝「金はやる、黙って死んでゆけ」

1、「日本政府は韓国政府に金を渡す。だからこれ以上蒸し返すな。（政府筋）」とする態度は、その金が被害者たちへの「口止め料」であることを露骨に示している。この「口止め」という行為は、被害当事者たちの政治的抹殺である。

さらに、「少女像」を撤去することを支払いの条件とするということは、「お前ら目の前からうせろ。さもなくば、びた一文出さん」という恥ずべき傲慢さである。しかも、言い放った後始末を韓国政府にやらせるというのだ。

2、それだけではない。「金を渡すから、これからは国際社会で非難するな」「蒸し返すな」という脅し文句は、私・たちの活動をも、「すでに解決済み」として、韓国からの抗議の声と共に封じ込めてしまうためのものだ。日本政府お得意の脱植民地化回避の手口である。ソウハ、イクモノカ！

II 「子や孫に謝罪し続ける宿命を背負わせるわけにはいかない」＝皇軍との共犯行為

1、「宿命を背負わせ」たのは、かつて皇軍であった祖父たちの行為である。しかし、70年後の安倍の共犯的振る舞いで、「宿命」はこれから先も永遠に続くことになった。

2、では、真に「最終的かつ不可逆的な解決」を見て、背負った宿命を下ろせるときは来るのか？

——来るとしたら、それは戦後日本国家に括りつけられた脱植民地化回避のシステムを、列島に住

もう者たちが、内側から破壊したときである。

しかし、安倍の言動を恥ずかしいと感じる「国民」は、今ほとんどいない。安倍の言動は大日本帝国から続く「国益」を守ったという理屈だ。そして、「国民」は「国益」を守ったのだから、それでいいと思っている——これでは脱植民地化など到底あり得ない。日本国民は未だに植民地宗主国たる帝国国民意識を脱していない。それが敗戦後70年、何もしなかった戦後日本国家の暗澹たる現実だ。

安倍は脱植民地化回避のシステムを起動させながら、それを巧妙に見せないようにしてる。というより、国民はそれを見ないようにして、「ニッポンすごい」「ニッポンジン偉い」と、(外から中は見えるのに中から外が見えず、自分たちの姿しか映らない) ハーフミラー・ドームの中で、はしゃぎ続けている。

Ⅲ 議論を終わらせるための「おわび」を反転させて、歴史認識で争う

1、「日本政府の振る舞いを、当事者側がどう受け止めるだろうか／日本政府にもっと誠意ある謝罪をさせるにはどうすべきか」——こう考えている以上、この問題を切り裂く刃は、決して自分自身に向かうことはない。敗戦後70年、「日本国民」はこのような態度でいることで、何を失ってきたのか——それは、他者(=アジア)からのまなざしであり、それに対する羞恥心ではないか。私・たちは、国益を最優先し、他者のまなざしで自分・たちの姿を照らすことのできない「日本国民」であり続けるかぎり、皇軍の末裔からは抜け出せない。

2、脱植民地化回避のシステムをどこからぶち壊すか——辺野古かフクシマか改憲阻止行動か・・・それは分からない。しかし、これだけは言える。国民主義に立った明治近代からの歴史認識——これを根底から改めない限り、絶対に「システム」を破壊できない。国民的アイデンティティを構築する上で欠かせない国民主義に基づく歴史意識を否定し、植民地支配の負の歴史を直視することによって、人々が「国民意識」に支配される歴史観を拒否するところへ到達しない限り、どこを狙っても、「システム」を破壊するまでには至らない。70年続く戦後日本国家の在り方を根底から変えることにはならない。「国民なめるな」(戦争法案反対国会前行動でのコール)では、戦争法制は止められなかったのだから。

3、安倍首相の「おわび」を起点に「日本国民」に折り返す——おわびすることで『慰安婦問題』が最終的、不可逆的に解決したことに合意した」のならば、わびる点があったことを日本政府は国際公約として「最終的、不可逆的に」認めたことになる。安倍は、この認識を後退させることはもうできないのだ。安倍の狙いはこの問題についての議論を封じ込めることにあるのだろうが、そうはいかない。法的な謝罪であるかどうかや賠償責任があるかどうかは大事なポイントだが、この際わきに置い

てでも、これは、帝国の歴史上大きな負を自ら認めたことになる。

明治初期から日本の支配層が近代化の遅れを取り戻さんとして取り入れた帝国主義、アジアの植民地化と侵略戦争 ——この帝国がたどった道に誤りがあったことが、今安倍政権の下ではっきり確定した。輝かしい帝国の歴史上の、たった一つの汚点であるというかもしれないが、その一つが、植民地主義そのものの残虐性を白日の下に晒し、帝国日本を明確に否定する起点になり得る。安倍政権と歴史認識で争う際の国際的なアドバンテージになる。

この皇軍の蛮行を、地球上のあらゆる植民地主義的暴力関係の折り重なった歴史上に位置付ける。そうすることで、この組織的性奴隷制が、15世紀の大西洋を渡る奴隷貿易の始まりから現在までの世界中の植民地主義的暴力の連鎖の上であり、世界の帝国主義の中でも最も後発の日本帝国が、後発であるがゆえに、植民地主義が必然的に招き寄せる凶暴性を無限定に解き放った蛮行であったことが浮き彫りになるだろう。

ところで、15世紀にまでさかのぼって奴隷制や植民地主義を国家による犯罪であると断罪した国連の会議がある ——2001年9月8日に南アフリカのダーバンで開催された、「反人種主義・差別撤廃のための世界大会」＝通称ダーバン会議である。ここで採択されたダーバン宣言では、西欧諸国がこれまで行ってきた植民地時代の「奴隷制」は、「人道に対する罪」、すなわちナチスのホロコーストにも比肩される重大な人権侵害であると、初めて真正面から提起がなされた。しかし、国連では植民地主義の来歴をもつ欧米諸国が未だ支配的な力をもっており、ダーバン宣言の実践化は未だ道半ばである。

そうではあるが、この世界大の帝国主義と比較すれば後発の「地域帝国主義」ともいえる日本帝国主義の性奴隷制度を問う流れを、かつての欧米帝国の植民地主義責任を問う、緩やかだが長大な潮流と合流させられるならば、「なぜ欧米諸国には植民地支配が許されて、日本だけ謝罪しなければならないのか」という安倍流の言い逃れは、この先通用しなくなる。

日本と韓国は、北朝鮮封じ込めに躍起になり中国の覇権主義にも対抗する米国から、軍事的にさらに一体化するように厳命されており、「慰安婦問題」という懸案の「処理」を命じられた。しかし、上述した15世紀からの構図を描くことで、被害当事者の頭越しに手打ちを行った日韓両政府と、それを覇権主義的に促した米国政府 ——犯罪的なこれらの政府の振る舞いをすべて串刺しにする視点をもてる。

さらに、私・たちは、脱植民地化を回避する日本国家と、それを迫ることに不徹底な自分自身の脱植民地化をも串刺しにする視点を、もたねばならない。敗戦後の日本国家から恩恵を受けてきた自分自身にも、不徹底な面が多々ある。あるからこそ、安倍政権のような、アジアの民衆に顔向けできない恥ずかしい政権を支える恥ずかしい体制がこの列島を支配しているのだ。

この現状が、自分自身の不徹底さから生起していることを、苦い思いと共に自覚しながら、これからも声をあげていく ——声をあげよう。あげた声は必ず自分自身に戻り突き刺さるけれど。それでも声をあげよう。それだけが武器なのだから。どこでも、何度でも。